

ほんとうに早いもので、今年度も残すところとうとう3週間あまりとなってしまいました。先日 緊急事態宣言期間が更に延長されましたが、改めて4月からの園生活を振り返ってみた時、まさに、コロナに始まりコロナに終わった1年でした。人の世は すべてが不確実で想定外とつくづく思い知らされています。けれどもその中に在って ここまで無事に守られました幸いを心から感謝申し上げます。1年間、皆様の温かなご理解と お力添えを ありがとうございます。また 今年は 保護者の方々に参加いただく機会を設けることが殆ど出来ず、とても残念でした。そのため 園だよりの発行を 増やし、クラス便りとして各担任達が 日常のクラスの様子を詳しく伝える形をとらせて頂きました。先生達も 週1回の原稿作成は大変なこともあったと思いますが 保護者の皆様に 子ども達の日頃の姿を理解して頂けるように出来ることをしたい との思いから話し合っって“挑戦”したことでした。お忙しい中 お読み頂きましたこと 大変 励みになりました。重ねて 本当にありがとうございました。

保育園での生活や 様々な日々の活動、行事等を体験して頂くことは 保育園を具体的に理解して頂くことにつながる大変良い機会ですので、来年度は 少しずつでも開催できるよう願っています。その思いもあり、全職員の願いを込めて 今週末のクラス懇談会を コロナ感染予防対策を徹底し開催することにしました。ささやかですが お顔を合わせてお話ししながら分かち合えるひと時になりますよう、ご都合のつく方は お子さんと一緒に ぜひ おいでください。お待ちしております。

さて、年長組の子ども達にとっては、つのぶえでの最後の1年の 様々な活動や行事が規制され次々に 中止せざるを得ない状況が続いてしまったことは、本当に申し訳なく 無念でなりません。皆で“集まれないこと”“動けないこと”“外に出られないこと”等の 不自由さ、もどかしさ言葉にできない大きな悔しさを 痛感させられてきた今年度でしたが、その度に大事にしたのは “つのぶえらしさ” でした。出来ないことを嘆いたり焦ったりするのではなく やりたいことを諦めるのでもなく、まず 目の前の子供達を見つめ、ひとりひとりの心を尊重し 寄り添って 今 必要なことを選択し楽しんで取り組んでいこうと努めてきました。それを教えてくれたのは 誰でもない 愛する子供達でした。現状を あるがままに受け入れ、常に柔軟で 前向きな姿に いつも前進する勇気と希望を与えられ エネルギーを注いでもらいました。感謝でいっぱいです。突然に現れ、人の心も身体も蝕みながら 今もまだ拵り続ける「コロナ」という暗く重い闇に 翻弄されている私達ですが、子ども達の存在こそ 打ち勝つ輝く光であることを実感しています。

そして 保育園（幼稚園・子ども園）は、その子ども達の大切な乳幼児期に於いて「人として」の“心の土台”をしっかりと培う場でなければならない必要性和責任を、このコロナ禍の中で 子ども達と共に過してきた日々を通し、改めて痛感させられ 見つめ直す機会を与えられました。保育や幼児教育の現場は、子どもに何かを強いる場所ではありません。一方的に教え込んだりできるか否かによって 子どもを判断したり 優劣の順位をつけたりすることが目的施設でもありません。子ども達と私達大人が 試行錯誤を繰り返しながら 真剣に生き合い ぶつかり合い 命の価値を共に学び合い 育み合う場です。「人として どう在ればよいか」という生きる基を構築するため、命の源である神様の存在とその愛を 子ども達と共に感じ合い分かち合いながら これからも 心を育む現場であり続けることを何よりも大切に 努めていきたいと思っています。

間もなく 2011年3月11日の 東日本大震災から、ちょうど10年が経とうとしています。激しい地震の直後、その現実の驚きや戸惑いと共に 恐怖や不安で震えてしまっていた大人達を安らかな笑顔で支え、冷静さと温かな心を取り戻させてくれた あの時の子ども達の頼もしさに感謝したことを 毎年 思い出す私です。翌日に 卒園プログラムのバス遠足を控えていた金曜日、年長組の子ども達と、三鷹市のシブリ美術館～東京タワー行きの 明日の予定について確認してワクワクしながらおやつを準備している最中、他のクラスは お昼寝中で静まり返っていました。地下鉄の中にあるような“ゴォーッ”という地鳴りのような不気味な音が 次第に大きく響いた次の瞬間、いきなり足元をすくわれるほどの とてつもない激しい揺れに身体が振り回されました。この時の記憶が 今も はっきりしていないところがあるのですが、「子ども達…」と ひたすらその一心で りす組へ向かいました。園庭へ避難した2階の子ども達と先生達も皆 大丈夫だとホッとした途端に涙があふれ出て 全身の力が抜けて座り込んでしまったことを 覚えています。その後の余震に怯えながら 皆で集まり、しばらく身体を寄せ合っている中、自ら立ち上がった年長組の子ども達が 乳児達ひとりひとりに そっと寄り添って、おやつと一緒に食べ始めました。「びっくりしちゃったね～」 「大丈夫！怖くないよ」と優しく声をかける そのたくましい姿に私達の方が励まされた想いでした。翌日の卒園プログラムも 終業日までの予定も すべて中止、年長組全員が揃ったのは 急遽 年度最終日に変更した卒園式でしたが、子ども達は皆 最後まで明るく前向きでした。「いつか皆で東京タワーへ行きたい！」と 会う度、いまだに言われますすっかり成長し高校生となった今でもこの年の卒園生達に対する想いは 特別な祈りがあります。

今年度の年長組15名との この1年も、そういった意味で 忘れられない歩みになりました。人として 一生懸命に生き合い、たくさんのことを学びながら 吸収し 成長してきた子ども達です。これからの道のりは 山もあり谷もあり、楽しいことや幸せに満ちる時も、反対に 試練や挫折で苦しみ涙を流す時もあるでしょう。でも、ここで それぞれに育んだ 神様を信じる心・祈る心・自分を愛し 人を愛する心・善悪を考え 振り返る心・小さいものや 弱い存在を いつくしむ心・マリアさんとイエスさまを乗せて 遠いベツレヘムまで歩いた ろばのトトのような 頑張る心・そして命を大切に尊ぶ心・・・ 出会えた大切な仲間との絆はきっと これからの貴い宝物となり 大きな力をくれることでしょう。その温かな絆を心の糧にして 天を仰ぎ笑顔で歩んで行けるようひとりひとりとの出会いに心から感謝しながら 祈りと共に 皆の巣立ちを送りたいと思います。

これからの卒園までの わずかな時間を 在園の子ども達と一緒に ひと時ひと時 惜しみながら温かな思い出として たくさん笑顔が残るように お互いの心に刻み合いたいと 願っています。

この1年、つとぶえに関わってくださったすべての方々の上に 神様の祝福が注がれますように。子ども達ひとりひとりの魂と歩みの上に 神様の豊かな平安と導きが ありますように。(石田 記)

『主は、すべてのわざわいから、あなたを守り、あなたの命を守られる。

主は、あなたを、行くにも帰るにも、今よりとこしえまでも守られる。

(詩篇 121 : 7-8)』